



一般社団法人 日本顕微鏡歯科学会

# 第20回学術大会・総会 基調講演

大会長：寺内吉継

実行委員長：表茂稔

# グローバルスタンダード破折器具除去方法と 未来の破折器具除去の行方

寺内 吉継

大会長／医療法人社団インテリデント理事長

破折器具除去の成功率は主に破折器具の可視性、破折器具の長さや湾曲根管の角度、湾曲根管内湾側の位置特定、破折器具除去方法などの要因の違いにより異なってくる。今回の講演では破折器具除去に影響を与える可能性のある原因や変動要因の影響を過去の研究からエビデンスベースに突き止め、破折器具除去方法をより効果的にかつ予知性の向上する方法を検討し提示したい。また一方で現在の破折器具除去方法は顕微鏡から見える破折器具の除去に対して予知性が認められるが、見えない破折器具除去に対しては予知性が乏しい。このため将来の見えない破折器具除去方法では見えない状態でも予知性をもたせることに焦点が置かれることになるだろう。実際に中国とスイスの歯科企業を中心に破折器具が見えない状態でも予知性を得るための新たな専用機器・器具・薬液などの研究開発が進められている。当然ながらこれらの器具・機材を用いての形成方法や除去方法も今までと異なったアプローチになるであろう。また、未来の破折器具除去方法におけるもう一つの可能性としては、根管形成方法が大きく変わり根管形成用ロータリーファイルが必要としなくなる可能性がある。ファイルを使用しなければ器具の破折は生じなくなる。あるいは何十年も先の話になるが、ニッケルチタンに代わる絶対に破折不い金属製ワイヤーが新たに開発される可能性も考えられるだろう。